

三重県における畜産物の G A P 推進方針

三重県

みえGAPチャレンジ宣言 ～三重からGAP認証の輪を！～

私たちは、農業を志す若者や農業の未来を拓こうとする生産者など、意欲と情熱に溢れる皆さんとともに、「生産者の輪」、「生産者と消費者の輪」、「生産者と流通業者の輪」など、様々な輪を生み出し、つなげることで、GAP認証の取得にチャレンジします。

そして、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をマイルストーンとして、伊勢志摩サミットで注目された三重の農産物や畜産物をさらに磨き上げ、世界に通用する食へと高めていきます。

平成29年7月24日

三重県知事 鈴木英敬

三重県農業協同組合中央会会長

全国農業協同組合連合会三重県本部運営委員会会長

谷口俊二

(立会者)

全国農業協同組合中央会会長

奥野長衛

(立会者)

衆議院議員

小泉進次郎

1 趣 旨

平成 28 年 5 月に開催された伊勢志摩サミットでは、松阪牛、伊賀牛をはじめとした多くの県産畜産物を各国首脳やメディア等に提供され、その食材の素晴らしさを国内外に発信することができました。サミットで得られたレガシーを活かしつつ、さらに 2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした需要創出のチャンスとみなし、県畜産物を積極的にアピールしていく必要があります。

一方、東京 2020 年オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京オリ・パラ」という）の畜産物の調達基準（平成 29 年 3 月）においては、①食材の安全性の確保、②環境保全に配慮した畜産生産活動の確保、③作業者の労働安全の確保、④快適性に配慮した家畜の飼養管理、の 4 点に対して適切な措置が講じられているグローバルGAP又はJGAP家畜・畜産物による認証を受けて生産された畜産物と明記されています。なお、その認証を受けた畜産物以外に必要な場合は、GAP取得チャレンジシステムの確認を受けた生産物も調達可能とされました。また必須の要件に上乘せをする形で推奨基準として、農場HACCP認証、エコフィールド利用畜産物等を位置づけています。

将来、東京オリ・パラを契機として、食の安全安心に対する消費者ニーズが高まり、国内流通においても、国際水準GAP認証が畜産物で求められることも想定されることから、今から着実に準備を進めていく必要があります。

さらに、農業大学校や農業高校等の教育機関におけるGAP教育は、農業人材の育成に重要であることから、国は農業大学校でのGAP学習のカリキュラム化や農業高校におけるGAP教育を推進するとしています。

加えて、全国の消費者のGAPの認知度は、13%とまだまだ低いことから、国はこれを高めるために、消費者や流通加工業者に購買意欲などの調査や新たな施策を打ち出すこととしています。

こうした中、三重県ではこれまでの取組や課題もふまえ、GAPは畜産経営を改善してくうえで、必要不可欠な取組であるという意識を高め、国際的に通用するJGAPに取り組む風土を作り、新たな情勢変化にも的確に対応していけるようGAPを推進していきます。また、三重の畜産が世界に通用するように、そして夢のある畜産、持続可能な畜産が実現するように、県が国際水準のGAP認証取得を推進するための今後3年間の目標や具体的な活動・推進方法などを示します。

2 現状と課題

平成 29 年 3 月に、東京オリ・パラの食材調達基準として、グローバルGAP又はJGAP家畜・畜産物認証取得が要件として示され、同月末、一般財団法人日本GAP協会が、「JGAP家畜・畜産物」の基準書を策定し、8月頃を目処に、認証体制も構築される予定です。また、JGAP認証取得には、3ヶ月間以上の生産工程管理記録が必要となるなど生産者にとってすぐには取り組みにくい内容であるため、それを補うシステムとして、JGAP取得につながる取組項目をリスト形式で提示し、生産者が自己点検した内容を第三者によって確認するGAP取得チャレンジシステムが2020年までの措置として設定されています。

JGAPは、①農場運営、②食品安全、③家畜衛生、④環境保全、⑤労働安全、⑥人権の尊重⑦アニマルウエルフェアの視点から適切な生産工程管理のあり方についてまとめられた新たな日本発の規格で、国際認証機関であるGFSSI（※）の早期の認証が予定されています。一方、畜産のグローバルGAPは、国際的には認証取得が少なく、飼料生産などが管理項目として設定されていることから、県内畜産農家では取

得困難な状況となっています。こうしたことから、本県の畜産物ではJGAP家畜・畜産物の認証取得を目指さずこととなりますが、この制度はスタートしたばかりで、認知度も低い状況にあります。このため、幅広く生産者への周知・定着を円滑に進めていくため、推進するための体制づくり、指導者の育成などに取り組むとともに、関係機関連携のもとJGAP家畜・畜産物の認証取得に向けて、生産者のレベルに応じた柔軟な支援を進めていく必要があります。

※GFSI (Good Food Safety Initiative) 世界食品安全イニシアティブ
食品安全の向上と監査コストの適正化を目的とした民間事業者による国際的な組織。一定の基準に適合する食品安全認証スキームの承認等を実施している。
GFSIの認証を受けた規格・認証スキームは、国際的に通用するものとされる。

3 基本方針

三重県産の畜産物をさらに磨き上げ、世界に通用する食へと高めるため、JGAP認証の取得を推進するとともに、JGAPは、畜産物の安全・安心や畜産経営を改善していく上で、必要不可欠な取組であるという意識を高め、JGAPに取り組む風土作りに取り組みます。

JGAP認証取得に向けた各生産者のステージを明確にし、その認証取得を有効に活用していただける生産者に対しては、取得に向けてしっかりと支援していきます。

特に、既に農場HACCP認証取得をしている農場については、早期の認証取得を目指し、他農場のモデルとします。

また、JGAPのレベルに達することが、すぐには難しい生産者については、経営の中でその重要性を理解し、JGAP家畜・畜産物の準備段階としてのGAP取得チャレンジシステムを支援ツールとして用い、自己点検への登録を行い、認証取得へのステップに、早期に移れるよう支援していきます。

県内のより多くの生産者がJGAPを理解し、実際に取り組み、経営改善が図れるようJGAPの実践に向けた取組、認証取得に向けた取組を支援します。また必要に応じ、JGAP認証取得と併せて、農場HACCP認証取得についても支援していきます。

4 推進上の数値目標

(1) GAP指導員・推進員の育成

平成31年度末 JGAPリーダー指導員(家保職員・普及指導員)の育成者数
5地域×2名=10名

JGAP指導員

(家保職員・普及指導員・営農指導員)の育成者数 40名

北勢、中央、南勢地域 各10名×3地域=30名

伊賀地域、紀州地域 各5名×2地域=10名

(2) JGAP認証

平成31年度末 JGAP家畜・畜産物認証取得(団体認証を含む)

6農場(団体)以上

5 具体的な推進方法

(1) 生産者へのアナウンス

- ① 各畜産関係生産団体総会時や生産者巡回時に、畜産農家向けパンフレットを配布
- ② 「JGAP家畜・畜産物及びGAP取得チャレンジシステム」研修会の開催等により、広くアナウンスを実施することで、普及・啓発に努めます。
飼養衛生管理基準の遵守、環境保全の取組など、身近なところから、「まずは始めよう」という意識が芽生える事を目的として説明を実施するとともに、取組への意欲を示す生産者を把握し、実際の取組支援につなげます。

(2) JGAP家畜・畜産物の推進体制の構築

① 東京オリ・パラ三重県農林水産協議会畜産部会

平成29年5月24日に設立された「東京オリ・パラ三重県農林水産協議会」の畜産部会で、関係部会とも連携を図りながら、勉強会の開催や、地域の推進情報を共有し推進方法などの検討を実施します。

構成員：全農みえ畜産部、松阪牛協議会（事務局松阪市）、
伊賀産肉牛生産振興協議会（事務局全農みえ）、
一般社団法人三重県畜産協会、
三重県養豚協会・養鶏協会（事務局畜産協会）、
三重県酪農業協同組合連合会、三重県家畜共済組合

② 本庁推進チーム

全国的な情報収集に努め、具体的な施策・方針・連携活動などの検討等を実施します。

- ・国際的に通用するJGAPに取り組む風土づくり（研修会の開催等）
- ・県内の各生産者団体に対するJGAP認証取得の推進・支援
- ・GAPチャレンジ取得システムの説明及び普及推進
- ・個別農場の認証取得へ向けた地域推進チームのサポート

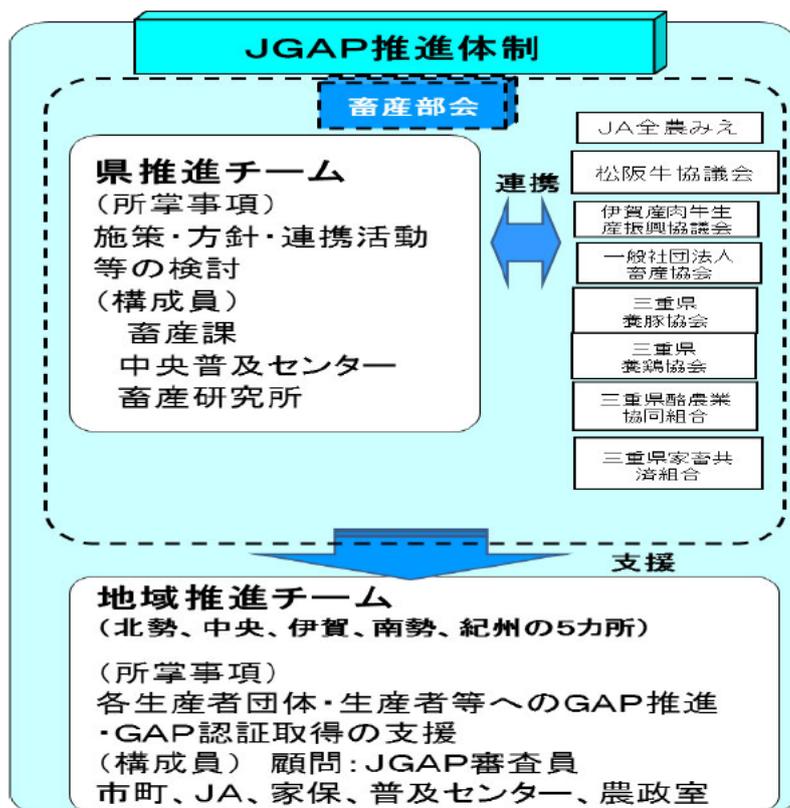
構成員：中央農業改良普及センター、畜産研究所、畜産課

③ 地域推進チーム

北勢、中央、伊賀、南勢、熊野の5地域に「〇〇地域GAP推進チーム」を設置します。相談役としてJGAP審査員を顧問に置きます。

- ・国際的に通用するJGAPに取り組む風土づくり（研修会の開催など）
- ・各生産者団体等へのJGAP認証取得の推進・支援
- ・JGAP認証取得に向けた各生産者のステージの明確化
- ・対象者に対するステージに応じた個別支援やレベルアップの支援
- ・JGAP審査員を顧問として、実践的な指導及びアドバイスにより認証取得に向けた取り組みを加速化

構成員：JA、市町、各家畜保健衛生所（支所）、中央農業改良普及センター、
農林水産事務所、
顧問：JGAP審査員



(3) JGAP家畜・畜産物 リーダー指導員・指導員の育成

① JGAPリーダー指導員の育成

JGAP研修機関の上級指導員研修を受講した者がリーダー指導員（家保職員、普及指導員）となり、地域推進チームを先導すると共に、地域における推進員の育成を図ります。

② JGAP指導員の育成

指導研修機関からの講師による研修会等を開催し、JGAP指導員（家保職員、普及指導員、営農指導員）を育成します。

◆ JGAP指導員の役割

- ・指導員は、JGAP指導員の資格を有する又は同等の知識が得られる研修を受講するなどにより、JGAPの導入意義や効果、導入手法に関する知識を有するものとします。
- ・リーダー指導員は、JGAP研修機関が開催する研修会の受講により指導員資格を有し、各協議会の会員や畜産経営者等に対して、地域推進チームにおける中心人物となり、認証取得に向けた取組支援を牽引します。
また、研修内容を推進員へ伝達し、推進員の育成に努めます。

◆ JGAP推進員の役割

- ・推進員育成のための研修会に参加し、JGAPの導入意義や効果、導入手法に関する知識等指導員と同等の知識を有し、個別の認証取得の支援を行います。

(4) JGAP認証取得に意欲的な生産者の取組支援

関係機関連携のもと、地域推進チームで、個別に農場指導を定期的に行い、認証取得に向けた具体的な取組を支援します。農場の取組段階に応じて、JGAP審査員を招き、より実践的な農場指導を受け、認証へ向けた支援を加速化していきます。

農場HACCP認証取得農場（三重県では肉牛の4農場が認証取得）は、差分審査での認証取得が認められているため、畜産協会などの関係団体と協力し、地域推進チームを中心に、早期の認証取得に向けて取組を支援し、他農場のロールモデルとします。

(5) JGAPを理解することから始める生産者への取組

JGAPのレベルに達することが、すぐには難しい生産者については、生産者団体等の単位で、GAP導入の必要性の理解を促進する勉強会を開催し、「身近なところから始めよう」の意識を芽生えさせ、理解促進を図ります。また、GAP取得チャレンジシステムをツールとして活用し、リスト形式で自己農場のチェックの実施を促し、早期に、認証取得に向けた取組へと導きます。

◆GAP取得チャレンジシステムとは

- ・JGAP家畜・畜産物の準備段階として、GAP取得に必要な取組項目をリスト形式で提示し、自己点検した内容をWeb上に登録し、中央畜産会が確認し、確認済みとなった農場名をWebで公開する仕組みです。

(6) 団体認証支援

団体認証の仕組みについては、今年度末に、日本GAP協会が策定予定です。まずは、団体認証に関する情報収集に努め、東京オリ・パラへの食材提供及び首都圏への販売・拡大を検討している地域ブランドの畜産関係生産者団体等の個々の状況を踏まえつつ、必要に応じ、団体認証取得に向けた準備をしていきます。

6 スケジュール

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
J G A P 推 進 体 制 の 整 備	三重県畜産部会勉強会・検討会 ・JGAP家畜・畜産物導入、認証取得の推進・支援 ・GAP取得チャレンジシステム制度の普及・推進		
	三重県JGAP推進チームの設置 ・生産者への幅広いJGAP家畜・畜産物の周知 ・JGAP家畜・畜産物導入、認証取得の推進・支援		
	○○JGAP地域推進チーム設置 ・研修会の開催 ・JGAP家畜・畜産物導入、認証取得の推進		
J G A P 認 証 取 得 の 推 進	JGAP家畜・畜産物 リーダー指導員・指導員の育成 ・JGAPリーダー指導員・指導員研修会等の開催		
	HACCP 認証取得農場のJGAP 認証 取得支援 30 年度取得を目指す		
	JGAP・GAP取得チャレンジシステムの普及・啓発 ・研修会の開催、個別相談及び指導 ・対象：生産者、畜産経営体、生産者団体等		
認 知 度 の 向 上	認知度の向上 ・広報媒体を通じた理解促進 ・GAP認証畜産物のPR		
	認知度の把握 ・eモニター調査		

附則) この推進方針は平成 29 年 7 月 24 日から施行する。

農場HACCPとJGAP家畜・畜産物の認証について

概要

農場HACCP：畜産物の安全性向上のため、生産農場にHACCPの考え方を取り入れ、家畜の所有者自らがハザードや管理点を設定し、記録し、生産農場段階の危害要因をコントロールする飼養衛生管理の方法。

JGAP家畜・畜産物：日本GAP協会により開発されたGAPのスキームの一つで、農場運営、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、人権の尊重及びアニマルウェルフェアの視点から適切な生産工程管理のあり方についてまとめられたもの。

<農場HACCP認証基準とJGAP家畜・畜産物の基準の概念図>

農場HACCPの認証内容

以下の点を農場が設定し、運用、検証及び改善が出来ていることを認証



農場HACCP認証とJGAP認証

